

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

※2002年10月改訂（新様式第2版）
1999年8月改訂（新様式第1版）

日本標準商品分類番号
873334

消炎・血行促進剤
指定医薬品 **ヘパリンZ軟膏**
HEPARIN Z Ointment

承認番号	13900AZZ01795000
薬価収載年月	1965年12月
販売開始年月	1965年4月
再評価結果年月	1979年2月

《貯法》室温保存
《使用期限》包装に表示の使用期限内に使用すること。
(使用期限を過ぎた製品は使用しないこと)

■禁忌

(次の患者には使用しないこと)

- (1) 出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）のある患者
〔出血傾向を増強するおそれがある〕
- (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者
〔出血傾向を増強するおそれがある〕

(次の部位には使用しないこと)

- (1) 潰瘍，びらん面
〔潰瘍，びらんを悪化させるおそれがある〕
- (2) 眼
〔異常な刺激痛を起こすおそれがある〕

2. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いため、皮膚の状態に注意しながら使用すること。

3. 適用上の注意

投与部位

- (1) 潰瘍，びらん面への直接塗擦を避けること。
〔「禁忌」の項参照〕
- (2) 眼には使用しないこと。
〔「禁忌」の項参照〕

■臨床成績^{1)~4)}

本剤の二重盲検比較試験を含む一般臨床試験成績(計21施設)は、有効率51.9% (136/262)であった。ただし、やや有効以上は80.9% (212/262)であった。

■組成・性状

販売名	成分・含有量 (1g中)		性状
	有効成分	添加物	
※ヘパリンZ軟膏	ヘパリンナトリウム (500単位)	精製ラノリン，ミリスチン酸イソプロピル，セタノール，トリエタノールアミン，パラオキシ安息香酸ブチル，ステアリン酸，流動パラフィン，セスキオレイン酸ソルビタン	白色ないし類白色の半固形状，乳状軟膏

■効能・効果

血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛）
外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎
肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防
血栓性静脈炎（痔核を含む）

■用法・用量

通常，症状により適量を1日1～数回塗擦またはガーゼ等にのぼして貼付する。

■使用上の注意

1. 副作用

総症例305例中6例(1.97%)に副作用が報告された。その主なものは毛細血管の拡張，湿疹・皮膚疹，痒痒感，刺激痛等であった。(承認時)
以下の副作用が認められた場合には使用を中止すること。

	0.1～5%未満
過敏症	痒痒，発赤，発疹

■薬効・薬理

1. 血液凝固阻止作用⁵⁾

ヘパリンは血漿中プロトロンビンのトロンビンへの変化を阻止することにより凝固時間を延長した。ヘパリンノイドよりその活性は強い。(in vitro)

2. 溢血斑に対する作用⁶⁾

ラットの皮膚に実験的溢血斑を作成し，その治癒経過を経時的に観察した結果，本剤塗擦により溢血斑を対照に比べ有意に消失させた。

3. 抗炎症作用^{7), 8)}

打撲足浮腫(ラット)，カラゲニン足浮腫(ラット)，紫外線紅斑(モルモット)などの急性炎症に対し本剤は明らかな抗炎症作用を示した。

また，cotton pellet法による肉芽形成(ラット)の亜急性炎症に対しても本剤は明らかな抗炎症作用を示した。

4. 鎮痛作用⁹⁾

Randall-selitto法変法(ラット)による炎症性疼痛に対して本剤は疼痛閾値圧を約2.3倍上昇させ，明らかな鎮痛効果を示した。

5. 筋組織血行促進作用⁸⁾

交叉熱電対法(ウサギ)により，基剤と本剤の血流変化差を求めると筋組織の血流が時間の経過とともに増大することが認められ本剤は筋組織血行促進作用を有することが示された。

■有効成分に関する理化学的知見

一般名：ヘパリンナトリウム

Heparin Sodium

分子量：5,000～20,000

性状：白色～帯灰褐色の粉末又は粒で、においはない。水にやや溶けやすく、エタノール又はエーテルにほとんど溶けない。吸湿性である。

水溶液（1→100）のpHは6.0～8.0である。

■包装

28g, 55g

25g×10, 25g×50

■主要文献

- 1) 吉崎 聡 : 診療と新薬, 12(2)365, 1975
- 2) 吉崎 聡 : 診療と新薬, 12(1)150, 1975
- 3) 高須 靖夫 他: 基礎と臨床, 8(14)4448, 1974
- 4) 西岡 五郎 他: 皮膚, 9(4)601, 1967
- 5) Head P. A. et al : Acta Medica Scandinavica, 172, fase, 3, 1962
- 6) 伊藤真理子 他: 社内資料
- 7) 永田 良一 他: 新薬と臨床, 37(5)832, 1988
- 8) 尾関 正之 他: 基礎と臨床, 22(8)1973, 1988

■文献請求先

※ゼリア新薬工業株式会社 医専学術部

〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町 10-11

5 (03)3661-0277



製造発売元

ゼリア新薬工業株式会社

東京都中央区日本橋小舟町10-11